

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470500758
法人名	社会福祉法人 ちどり会
事業所名	高齢者グループホーム 水仙の家
所在地 (電話番号)	津市高洲町1060番地 (電 話) 059-227-1114
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 10 日(水)

【情報提供票より】 (H20年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 14 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.2人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	61,000 円	その他の経費(月額)	11,500 円~
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(8 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	増井内科、スバル歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

津市の保護鳥である「白ちどり」が法人名になっているように、海岸に近い自然豊かで大きな団地の一部にある。2階建家屋の1階が事業所になっており、玄関やホールや廊下の天井が吹き抜けになっている。採光もよく鍵なしの事業所のため開放感があり、圧迫感がない。犬や鳥、金魚、鈴虫が飼われ夜になると狸親子の出現も利用者の心のなごみや楽しみとなっている。地域の受け入れもよく「何をするのも一緒に」のごとく保育園、小・中学校に至るまで様々な機会を通して相互に行き来し、地域の一人として生活している。「その人らしく、笑顔で最後まで」を信条に知事長始めスタッフ全員、地域の方々の応援も得て日々実践に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の見直し、運営推進会議の開催実現、家族意見表出の機会として第三者委員に來所して頂いていること、入浴を楽しむことの支援方法の改善等出来るところから改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全スタッフの意見を集約し、管理者がまとめている。マンネリ化している所や出来ていない部分に気付いたり、普段自分がかかわっていない面を知り、学ぶことが出来、意義があるととらえている。</p>
	<p>重点項目 ②</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>19年12月より開催している。会議の目的、意義の説明、会議の持ち方、事業所報告、行事案内、行事の進め方、前回評価時の家族アンケートについて等検討されている。地域代表や家族から活発な意見が出され、サービス向上に活かしている。会議結果は全家族に報告されている。本年度は、外部評価結果も報告、検討予定である。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族に安心して頂けるよう面会時の報告や変化があった時等、随時報告すると共に、意見や思いを表出して頂けるよう努められている。又、2か月に1回、ちどり会だよりも送付し会議や行事案内、結果報告もしている。今年は第三者委員も導入され、家族の意見を運営に反映させる努力をしている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会しており班長の役割を務めたこともある。地域行事への参加はもちろんのこと、保育園、小・中学校行事にも参加している。また子供も事業所を訪問し、相互に往来できる関係にある。日常的にも挨拶、声かけ、野菜の差し入れがある等自然に関係づくりができてい</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「誰もが、人として己の人生を全うできる事が真の福祉である」を軸として、明るく家庭的な雰囲気有し、地域や家族との結びつきを重視していくことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やホール等目につく所に掲示したり、会議・研修の機会に再認識できるようにしている。日々のかかわりでは、その人らしく、笑顔で日々送れることを念頭にケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会加入、班長が回ってくることもある。地域行事やサークル活動への参加はもちろんのこと、保育園、小・中学校とも相互訪問する関係にある。日常的にも挨拶や声かけ、野菜の差し入れがある等交流豊かである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は意見を出しあうことで全員参加している。マンネリ化している所ややれていない部分に気づいたり、普段関わっていない面も知り、学ぶことができ、意義があると認識している。気づきや意見は検討し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年12月より開催されている。メンバーは限定されていない。家族、自治会長、民生委員、教育集会所、保育園、第三者委員等地域の方の参加があり、行事や救命講習等に合わせ出席しやすく、又、広く意見が聞けるようにしている。	○	できれば構成メンバーに地域包括支援センター、行政も加えられ、家族や地域の方々と共にそれぞれの立場から出される意見やアイデアをサービス向上に活かしていかれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護福祉課や高齢福祉課、住民課等書類提出を兼ね訪問し、連携している。又、市職員も折にふれ事業所を訪問している。市の受諾事業として小学校への講師派遣にも応じている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1回、ちどり会だよりを送付し、行事・会議の案内や報告、職員の異動も報告されている。生活状況や身体状況については面会時に報告。話し合う事が多いが必要に応じて随時連絡を取り、報告・対応し、安心して頂けるよう努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の対話の中から聞くことや運営推進会議で出される意見、第三者委員との対話から出た意見等を取り上げ運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットを職員が毎日往来し、両方対応できるシステムにし、馴染みの関係づくりに努め、ダメージを防ぐ配慮をしている。結婚や出産等スタッフに変化がある時は利用者、家族にも報告されており、暖かく受け止められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長が講師の内部研修の実施や外部研修への参加も積極的に進めている。段階的に資格取得へのバックアップもされており、毎年合格者があり、スキルアップに努めている。現場でも体験から学べるようお互いに資質向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に参加しており、研修や会議を通して情報交換する等交流している。又、見学目的の相互訪問もあり、実習生の受け入れをする等サービスの質向上に反映させる取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学できる状態であれば本人、家族と共に来所して頂き、じっくり時間をかけてお話を聞きながら、その場の雰囲気を感じて頂き、入院中の方は病院訪問し、少しでも顔馴染みの関係ができるよう努めている。空床があれば体験入所も可能である。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶことが多い。共同生活者として教え、教えられて、助け、助けられの関係がスタッフ対利用者、利用者対利用者の中で築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に把握したこれからの生活の意向や希望をベースに日々の思いを対話の中から汲み取ったり、何気なく出されるサインを見逃さないよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の本人・家族の状況や思い、希望をもとにケース会議で検討し立案されている。身体面のみでなく生活の視点からも計画にあげられている。立案されたプランは家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には4か月に1回の見直しとしている。申し送りや日々の会議で状況変化やケア変更の必要性が出た時等随時見直し、家族にも変化を報告、意見も頂き追加、修正する等して新たな計画を立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	公的機関への書類提出代行(障害特定疾患、年金)個人的な買い物、喫茶店でティータイムづくり、お盆の墓参り、サークル活動参加者の送迎、受診支援等行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医による往診が月1回ある。以前からのかかりつけ医を希望する方には継続できるよう支援している。年1回の健康診断も事業所のかかりつけ医院で受けている。歯科、耳鼻科、眼科等他科受診も希望に沿って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	理念に掲げられている最後までの方針を家族に説明し、入居時に意向を聞きかかりつけ医に報告している。又、状態悪化が見られた段階で再度意向確認し、希望に沿えるようにしている。一人看取りの経験もあり、全員方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の言葉かけや言葉使い、対応に充分気を付けているが、何気なく発した言葉が尊厳を傷つけることにつながる場合があるので常に意識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的にあるが強制はない。起床や食事時間をずらしたり、散歩、買物、手芸、畑作り、晩酌等その人のペースでその日の希望に沿えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「同じ釜の飯を食べることによって仲間意識を育てる」ことを基本に一人一人ができることを担い、協働して準備し、作り・片付けをしている。スタッフも同じテーブルにつき、対話しながら同じ食事を摂取している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能。拒否のある人に強制はしないが清潔面から2日に1回は入って頂けるよう対応に工夫している。入浴時間は夕方、順番や気の合う人と入りたい等希望があるのでトラブルにならないようリストを作り対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中での家事分担を通して役割が自然に出来ている。サークル活動でのカラオケ、裁縫、畑作り、犬との散歩、買物、喫茶店へ行く等様々あるが、夜、野生の狸が親子で食事に来るので、餌付けを楽しみにしている人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候にもよるが毎朝、車椅子の方も一緒に周辺を散歩する。団地内や公園等飼い犬も一緒である。海が近いので貝採りすることもあり、季節に合わせて花見(桜、あじさい、コスモス、そばの花)等のドライブにより外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理事長はじめ総てのスタッフが鍵をかけることの弊害をよく理解されており、又フリーの場合何に注意しなければならないかも認識されている。そのため居室に鍵はなく玄関も昼間はフリー状態である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火事や地震を想定し、年2回避難訓練、緊急連絡訓練等を行っている。地域には災害時の協力依頼をし、了解を得ているが合同訓練はされていない。	○	夜間を想定した火災への防災訓練を地域の方々と共に実施して頂くことや自宅火災を想定した集会所への避難訓練も検討し、今後に備えて頂くことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食共に4種類の副菜を献立にし、栄養バランスを考慮している。その人の好みにより量の増減をしたり、摂取量の低下や体重減少のある時は、医師と相談する。嚥下障害のある人には形態を工夫している。水分は1日1500mlを目安に補給に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は引戸(自動)で、入ると季節の花が飾られ、鈴虫、金魚、鳥等がいる。ホールが広く、廊下に続く天井が吹き抜けで、圧迫感がない。余分な飾り物がないのでシンプルで清潔感がある。異臭や騒音もない。台所、食堂、居間も広く明るく、ゆったりとしたソファもあり居心地よく工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	六畳の洋間がほとんどだが希望により畳の部屋もある。使い慣れた箆笥やテーブル、椅子、テレビ、ラジオ等持ち込まれ、又好みの飾り付けもされ、その人らしい居室になっている。必要な方にはポータブルトイレを設置し、換気に配慮し居心地良く過ごせるように工夫している。		